

瀋陽師範大学短期研修プログラム報告書

北海道教育大学釧路校 教員養成課程

地域学校教育学専攻

3年 沢田 千秋

留学国 中国

大学名 瀋陽師範大学

(1)受講した授業について

私が受講した授業プログラムは、①汉语教程（ピンイン、発音、簡単な日常会話の学習）②聴力（リスニングを重点とした学習）③口語（話すことを重点とした学習）の3つであり、ピンイン、発音の学習に重点を置いていました。クラスの受講者は計10～15名（日本、韓国、ジブチ共和国、アラビア系、インド等）多様な人種で構成され、教師は一つのプログラムに一人で、授業中の生徒と教師のやりとりは主に英語と簡単な中国語で行われました。私が受講した期間は2週間という短い期間だったため学習の大半が中国語の発音やピンインの学習であり、実生活に活用できる会話や、中国語の文法を学ぶ前に帰国する形になってしまったことが非常に残念でした。授業自体は、教師が受講者の間違いや不安を取り除くような熱心な指導をしてくださり、日々自分自身の成長を実感できる授業でした。

(2)瀋陽師範大学短期研修プログラムを通して

瀋陽での生活は、沢山の驚きと発見がありました。そしてその生活は沢山のひととの出会いに支えられ、私にとっての大きな財産になりました。沢山の驚きと発見は、主に中国の伝統文化と生活文化についてです。中国の伝統文化では瀋陽師範大学側から、中国の茶道・民間楽器・太極拳・建造物（故宮、北陵公園）・食文化の体験（餃子づくり）等、中国（特に東北地方）の文化に触れる機会を多く設けて頂き、日本の文化との違いを学び、また似ている部分も感じ取ることが出来ました。例えば、中国の茶道の豊富な楽しみ方、「茶」という日本でも使われている言葉の由来、日本では見たことも無いような楽器の数々と、それらの楽器が奏でる多種多様な音色、伝統建造物の造り方。全てが新鮮な体験でした。

このように様々な体験をすることが出来たのですが、その体験をより貴重なものにしてくれたのは、特に瀋陽師範大学の日本語学科の学生の方々との出会いがあったからだと思っています。午前中は授業を受け午後は文化体験や、自由時間といった生活リズムだったので、午後の空いている時間を見つけては学生の方々と積極的に交流を行いました。言語の違いに戸惑うこともありましたが、覚えたての日本語、中国語を使っての会話は大変さ以上に楽しさがありました。お互いの国についての疑問をぶつけ、違いに驚き、感動することも多くありました。会話の中では、中国の現状を教えてもらい、中国の国民から見た中国、さらに中国から見た日本に対する意見を知ることができ、貴重な考え方を得ることが出来ました。歴史的な背景や、現在の日中関係にとらわれず、1人の人間としての交流は、深く心に

残りました。

今回のプログラムを通して出会った人達は、中国の方だけではなくありません。瀋陽師範大学にはさまざまな国から年齢も幅広く、多くの人達が中国語を学びに来ていました。その中には、日本語を学んでいる人や自分の国の言葉以外の言語を既に習得している方もいました。そのような人達との交流の仕方は、完璧ではない英語、中国語、表情、身振り手振り、ありとあらゆる手段を使いました。そのような経験をした上で、改めて言語は人と人をつなぐ重要な手段だと実感し、言語を学ぶことは世界とのつながりを持つことだと感じました。私が次回からの参加者に伝えたいことは、興味があってもなくても、時間があつたら是非、今回のようなプログラムに参加し、日本とは違う文化や考え方を体験して欲しいということです。(私の場合はほぼ中国語がゼロからであり、言語能力を問わないということだったので参加しやすかったのですが) 留学先の言語を習得していることに越したことはありませんが、すこし言語能力に自信の無い方でも、「日本とは違う国を見てみたい」という気持ちがあるなら、すぐに行動に移すべきだと思います。頭で考えるよりも、現地で自分の五感全部を使った体験のほうが心に残るものも大きいはずです。貴重な機会を設けて下さった北海道教育大学、そして瀋陽師範大学の方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

(3)瀋陽師範大学での生活の様子

～故宮～



～瀋陽の学生と留学生で行った餃子づくり大会、色々なミニゲームも行われた～



～中国の街並み、現地の学生との交流の様子～

地元の学生の方々はとても温かく日本の学生を迎え入れてくれ、バスケットボール、カラオケやローラースケート、喫茶店等々様々な場所に案内し交流をしてくれました。短期留学の日々を豊かで充実したものにしてくれた学生の皆さんに、心から感謝しています。

